健康かべ新聞コンクール専用原稿用紙

歯周病は国民病

人生百年!!

健康推進新聞

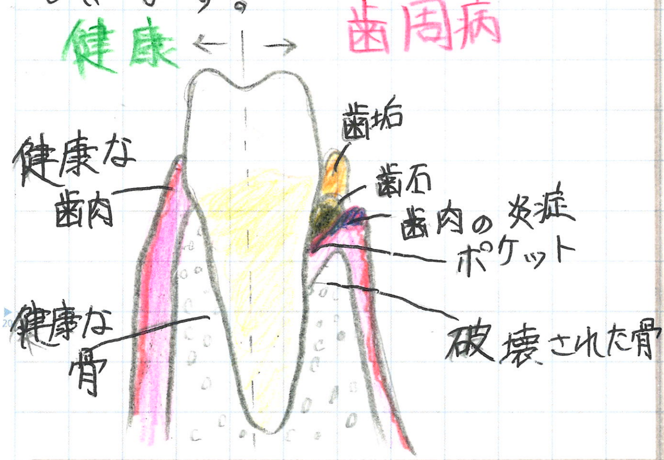
発行者
南小倉中学校
二年 二組
名前 渕上晏叶

歯周病とは、細菌の感染によって歯ぐきが赤くはれたり、歯が抜け落ちたりする病気です。原因は、歯と歯肉の境目(歯肉溝)の清掃がいき届かないと、そこに、多くの菌が停滞します。歯肉に炎症が起き、赤くなったりはれたりします。しかし、ほとんどの場合、痛みはありません。更に、進行すると膿が出たり、歯が動揺してきて、最後には歯を抜かなければならなくなってしまいます。

歯周病の有病率について調べると、三十代〜六十代にかけての有病率が高く、三十代以上では三人に二人の人が歯周病になっています。これが、「歯周病は国民病」と呼ばれる理由です。

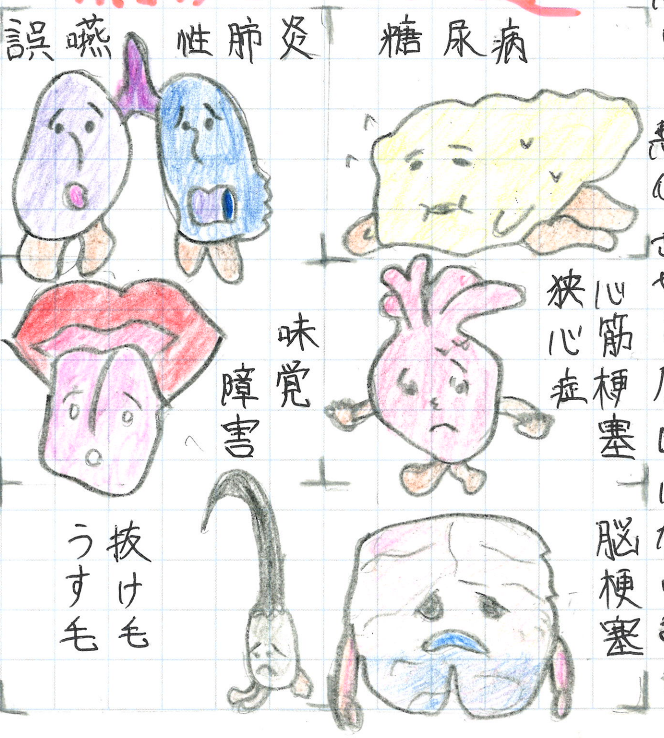
<歯周病>

歯垢は取り除かなければ硬くなり、歯石といわれる物質に変化し、歯の表面に強固に付着します。これは、歯みがきだけでは取り除くことができません。この歯石の中やまわりに、さらに細菌が入りこみ、歯周病を進行させる毒素を出し続けています。



<歯周病と愉快な仲間達>

炎症によって、出てくる毒素が歯肉の血管から全身に入り、様々な病気を引き起こしたり、悪化させる原因になります。



<編集後記>

私の祖父は、小倉北区で歯科技工士として40年以上働いています。今回、新聞を作成するにあたり、インタビューしました。祖父は、歯周病で歯ぐきが下がると、入れ歯や補てつ物(削った歯に被せる物)を作成することが大変で、作成したものが歯ぐきと合わないと細菌が入り、再び炎症を起こすので頭微鏡を使い、ミクロ単位で調節するそうです。すごく大変そう…。今回、歯周病の恐ろしさを知るとともに、しっかりケアすれば多くの病気を防げることを学びました。ちゃんと歯みがきしよ!!

主催：全国健康保険協会（協会けんぽ）福岡支部　共催：西日本新聞社